

都道府県名： 山形県

【経営の概要】

おうとうの超早期加温（12月下旬～1月中旬被覆）、施設面積10a

ハウスの概要

規 模 594㎡（間口9m×奥行き66m×高さ6m）

暖房機 （株）ネポン HK6027（150,000kcal/h）

燃 料 A重油

被覆時期 12月下旬 加温開始 1月中旬 収穫期 4月下旬～

【対策の内容】

○おうとうハウスの二重被覆

ハウス内の熱はビニール表面や隙間から失われ、中でも、ハウス表面からの損失が全体の60～80%になるといわれている。

おうとうのハウス栽培において、ハウス側面の二重被覆は広く普及している。しかし、屋根部の二重被覆については、ハウスの構造的な要因やハウス空間内の枝の広がりなどから、これまで実施が困難であった。

しかし、燃油価格の上昇に対応するため、結果枝の切り下げを行いながら、写真にあるような屋根部の二重被覆を三年程前から導入した。



屋根部の二重被覆



ハウス側面の二重被覆

二重被覆

【対策の実践効果】

厳密な比較データはないが、燃料消費量（A重油）において、周辺の同じような作型・ハウスと比較して約3割程度の削減効果がみられている。

なお、北村山地域での導入は5名まで拡大している。

【今後の課題】

二重被覆により太陽光線の透過量が減少するため、全体的に生育は遅れる傾向があるので、生育の進度に応じた温度管理が必要である。

2月以降に加温する作型では、換気効率の低下から高温障害の発生が懸念されるので本技術の導入は困難である。また、屋根の融雪が遅れるため、連棟式のハウスでは注意が必要である。

【問い合わせ先】

山形県 村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課

電話：0237-47-8626